

## 第 66 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 30 年 3 月 29 日(木)15:30～

場 所 横須賀市役所 消防局庁舎第 2 会議室

出席者：秋岡委員、菊地委員、崎山委員、西堀委員、蛭田委員、山本委員  
吉田委員

欠席者：藤井委員、若江委員

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 福原課長、松田課長補佐、遠藤主任

- 
- ・事務局より、傍聴者なしとの報告があった。
  - ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 9 名のうち 7 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
  - ・規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行。

## 【審議事項】

### 次第1 平成30年度組織改正について

事務局から資料1により説明を行った。

#### ○質疑応答

委員 プロモーションは日本語にならないのでしょうか。

事務局 従前の集客プロモーション担当課長がプロモーション担当課長となります。カタカナはなかなか理解しづらいものがあるとは思いますが、組織の名称ということで、ご理解いただければと思います。

委員 プロモーション「担当課長」と書いてありますが、他のところは「課長」と書いていませんが、そのあたりをお教えてください。

事務局 それぞれの課には「課長」がいますが、観光課には課長の他に、プロモーションを専門とする担当の課長がいて、2名の課長がいるということになります。

委員 現在は文化スポーツ担当部長が1人いて、今後は文化スポーツ観光部長が1人になり、機動力や効率的な組織を目指されているということでしょうか。

事務局 そうということです。

委員 現行は、集客・プロモーション担当課長ということですが、平成30年度は「集客」が取れていますが、別の部署を置いたのか、それともプロモーションの中に「集客」を入れているのか、お教えいただけますか。

事務局 基本的には、集客・プロモーション担当課長が持っている仕事をプロモーション担当課長が引き継ぐ形にはなりません。

委員 毎年事業を点検している文化振興基本計画の体系が組織改正により、担当部署が変わってきたりすると、目標自体の組み直しをしたりするものでしょうか。

事務局 組織は変わりますが、事業についてはどこかの部署が行っているものですので、計画の体系が変わるということはありません。新市長になり今後4年間の新しい計画を作っていますので、進行管理をする事業の中で増減が若干出てくることはございます。

委員 企画課が新設されるということですが、具体的にそれぞれの課の役割を教えてください。

事務局 企画課以外の「文化」、「スポーツ」、「商業」、「観光」に特化した取り組みを行うこととなります。  
今回、これを横断する事業が出てきますので、その部分を企画課が担うということになります。  
文化については、観光と一緒にするような部分がありますし、音楽を使ったまちづくりでは商業との連携もありますので、そのようなところは企画課が行っていくこととなります。

## 【審議事項】

### 次第2「横須賀再興プランについて」

### 次第3「平成30年度事業予定について」

事務局から資料2、資料3により説明を行った。

#### ○質疑応答

委員 全体的に増えたのか減ったのかどうですか。

事務局 全体的にはかなり増えています。軍港資料館の整備費が入ってきていますし、新規事業もあります。減っている事業はほとんどないので純粋に増えています。市長の「文化・スポーツ・エンターテイメント構想」という影響もございます。

事務局 文化振興費で比較しますと、約3700万円増えています。主なものとしては、軍港資料館の整備に係る経費です。劇場や文化会館に係る経費も約2億8000万円増えています。

事務局 劇場の方は修繕箇所が増えてきているというのが実情です。

委員 国からの補助金もありますか。

事務局 軍港資料館の整備には国からの補助金も含まれています。

委員 再興プランということですが、「再興」という文字は、衰えたものに活力を与えるような消極的な印象がありますね。

事務局 市長の思いとしては、賑やかだった頃の横須賀、活力があった横須賀を知っていますので、ここから上げようということで、あえて「再興」と言っています。

事務局 市の現状として、停滞感や閉塞感、人口減少を課題としています。

事務局 市長がそれだけ危機感を感じているというところです。

委員 ルートミュージアムとありますが、軍港資料館の英語の訳がルートミュージアムですか？

事務局 これまで、横須賀市の軍港資料館がどういうものかを検討する中で、横須賀市の軍港資料館の形はルートミュージアムがよいのではないかということです。ルートミュージアムという言葉

は、造語になると思います。横須賀市全体を軍港資料館として捉えるイメージです。

事務局 補足いたします。軍港資料館を検討するにあたり、「単館型」、「既存施設活用型」、「ルートミュージアム型」と3つに分類して、考えてきた中で、「ルートミュージアム型」とさせていただいています。

事務局 モノを指す言葉ではなく、概念と捉えていただければと思います。

委員 エコミュージアムという言葉がありまして、三浦半島全体を博物館と捉えるというものです。その中で、AとBとCを結ぶルートを作ろうというように横須賀にある既存のものを見てもらおうというようなことです。例えば、戦前の通信学校であった第二術科学校がありますし、記念艦三笠にも通信機器の展示がありますし、YRPにも無線の展示室ができました。YRPは携帯電話の開発をしていたので、そういうものができました。通信というものをキーワードにそういった施設を結んでいくと、明治、昭和、平成をつなぐようなものができますし、例えば、トンネルなんかも同じですね。そういったものをルートで巡ってみようというものですね。  
軍港資料館そのものは単館で建てなければいけないという考えもありますが、立ち上がるまでに市内外の方に広めていこうというものです。

委員 エコミュージアム的な発想ということでしょうかね。今までやっているところはありますか？

事務局 ほとんどないです。限られた地域でやっているところはありますが、市域、市全体でというのはないと思います。横須賀が近代化遺産、現物が残っているのが強みだろうということでこの発想が出てきました。

委員 デジタルコンテンツ、VRの活用と言うことが気になりました。ルートミュージアムは、自分の足で旅をしながら見ていくと思うのですが、VRだと、その真逆でそこにいながら画像で見ると言うことだと思いますが、体験型と視覚的に見る情報の使い分けについて、お聞きしたい。

事務局 VRは疑似体験的なものができるものです。横須賀製鉄所については、建物が残っていないですし、そういったものをVRで再現することは効果があると思います。

その風景の中に、その当時のものを写しこむという技術もあるのですが、例えば、久里浜の海でそれを覗くとペリーが来航する場面が再現される、そのようなものも活用していければと思っています。例えば、浦賀奉行所は今はありませんが、その場所に行けば、浦賀奉行所が再現されるというようなものも検討しています。

委員 軍港資料館をそもそも建てる意味があるのかなと思ってしまったのですが、デジタルコンテンツを活用するのであれば、場所的なものはあまり要さないのではないかと思ってしまいました。具体的に、どのように物を展示していこうと考えていらっしゃいますか。

事務局 今回の軍港資料館の中核拠点では、現物の展示はあまりしない予定です。サテライトではそれぞれの当時のものを体験してもらおうというものです。中核拠点ではサテライトの情報を提供し、興味のあるテーマで自分でルートを作るような施設として、実際に現地に旅立っていってもらおうというものを考えています。

委員 博物館と言うと、モノが高い。モノの購入ということではないんですよね？

事務局 例えば、呉の大和ミュージアムには非常に多くの方がいられていますが、「戦艦大和」という目玉があります。そういったもので比べてみると、横須賀に何かあるかということ、なかなかない。細かい資料と言うのは、言い方は悪いですが、見ごたえがないことが多いです。では、横須賀の魅力は何かということ、当時の建物や市内にいくつも残っている近代化遺産だと思います。それを活かすことがやるべきことではないかと考えています。

委員 町並み保存、資料保存、活用といったものが展示になるわけですね。観光にも発展しますし、とても流動的でアクティブなものですよね。

事務局 もっと知りたいという人が出てくるでしょうから、自然・人文博物館とも連携し、資料の収集、保存、研究の部分も含め、事業計画をつくっていきます。

委員 軍港資料館というと幅が広いですね。

委員 近現代歴史博物館、日本の近代史と現代史の博物館を作る準備をしていかないといけないでしょうし、教科書でもペリー来航から日本の近代が始まったというこの横須賀の地で始めるのは

いいのではないかと思います。

近代という社会の仕組みをどんどん取り入れていく先端が横須賀にあったということ、社会の仕組みとして最初が変わってくるのは、横須賀、三浦半島であったということ、1つは軍というものに貢献していき、たくさんの人が全国に散っていくということを考えながら取り組んでいくことは必要だと思います。軍のことだけでなく、もう少し幅広い意味での大きなものを作っていけば、バックヤードはきちんとしたものがないといけないというところでは。

委員 三浦半島全体は要塞でしたから、江戸から現代にいたるまでいろいろなものがありますので、こういった捉え方は進歩的だと思います。それだけ予算をかける価値はあるかなと思いますね。そこは市民に理解を得る方法論としては、山本委員からお話のあった部分をPRしていき、日本がどういう国だったのかというものの部分が横須賀にあるというところを発展させていくことが大事ですよ。

委員 ネーミングも難しいですね。

事務局 軍港資料館というネーミングは市民団体から請願を出された当初の言葉を使っていますので、今後、またネーミングは違うものになるのかと思います。

委員 軍隊は近代的なものですので、近現代と結びつくのは当然でしょうし、工夫の余地があるのかなと思います。全体が資料館の説明ということやネーミングについては考える余地があるのではないかと思います。

委員 今までの事業計画は着実すぎる部分があったのですが、今回、新しいものがでてきて、再興に向けてということでわくわくするものを感じました。  
3つの方向性の中で、音楽・スポーツ・エンターテインメントとされていますので、集客が期待できるものがあればいいと思っています。  
予算額、約12億5千万円の中で、9割以上が芸術劇場・文化会館と言う部分だと思いますので、そこも外からの集客など同じ方向性を見ていくといいのではないかと思います。

委員 市長はご自身が音楽をやっていることもありますし、音楽関連の事業にも力を入れてきています。芸術劇場、文化会館、ハードの活用もしていきたいと思っています。

委 員

私は逆にこれを見て、大丈夫かなと思いました。

と言うのは、今後、高齢者の方が増えますよね。外から人を呼ぼうという部分と、子ども・親子に関わる部分がありますが、高齢者が漏れているんですね。このところをもう少し、今いる市民の健康度であったりということを文化でもう少し解決するようなものが必要だと思いました。

その中で、2つ、お聞かせください。

1つは、シニアの方が外に出ていこうというところがありません。例えば、史跡を巡り、外を回るようなものやスポーツとか外に出ると言う部分を上手に連携して、高齢社会に寄与できるような文化施策がほしいと思いました。

もう1つは、ハードはいいのですが、ソフトの部分の取り組みが少ないのかなと思いました。

VRの予算がこれだけのウエイトとして必要なのか、例えば、支援事業に分けて、既存の市民活動が活発になるようにしていただくなど工夫していただくとありがたいなと思いました。先日、仕事で富山県に行くことができました。富山県の美術館、全国屈指の来館者数で、県立美術館で1日に3千人入るそうです。なぜそんなに多いのかと言うと、モノがあるのではなく、コトがあるというそうです。学芸員の人員を増やしたそうです。県民の方が来ると、学芸員の方が案内をしたり、子供が何をやってもいいよというように学芸員やボランティアが提案するなど、そういったソフトを作ることで横須賀市の博物館も残念だと思いますので、そういうものが活性化するといろんなものが発展すると思います。

委 員

私が参加している社会教育の委員会で、施設の活性化を検討してきました。各生涯学習センター、コミュニティセンターで学びの成果の活用ということが行政の一番の役割なのですが、誰が教えるのかという人の問題が出てくるんですね。そういったことで学びとのリンクがうまくいくといいなと思います。うまく進めるアイデアが大変かなと思います。

事 務 局

高齢者の施策については、直接的にそういった施策が出ていないということはあると思います。ただ、実施していく段階では、例えば、ルートミュージアムについても、各施設を整備していく中で、地域に着目をしていきたいと思っていますし、担い手という部分で歴史を知っている高齢者の方によるガイドなどご協力をいただくということも考えています。

アートフェスティバルについても、高齢者の方が多く参加している既存の市民文化祭の関わりをしていくとともに、高齢者の



活動についても若い世代にも理解していただけるような取り組みをしていこうと思っています。

ソフトの部分をストックに出していくのは難しいところですが、予算の話になります。VRについては国からの補助金が採択されたこともありますし、先進的な事業化をしていて、金額が高くなっているというところはあります。

ソフトについては、お金をかけずにできるものも考えながらやっていきたいと思っていますし、また、人材の問題、特に学芸員などの資格職は計画的な採用が必要かもしれないので、いただいたご意見も勘案しながら検討していきたいと思っています。

委員

軍港資料館について、フランス側から見ると、初めから幕末の文章から「海軍の施設」、日本だけ製鉄所になったり、造船所になったりしています。

横須賀製鉄所の写真は残っていますので、展示もできると思いますし、私が持っているものもありますし、所蔵して集めて、何ヶ月か横須賀美術館で展示したこともありますし、常設の資料館ができることは理想的で、ヴェルニー公園あたりに製鉄所の図面などがジオラマなど置いておいたら、非常にいいのではないかと思います。横須賀製鉄所を作った船もわかりますので、日本郵政資料館に行くと横須賀に停泊した船が陳列もされていますし、船の資料館に行くと手がかりが得られると思います。もっと皆さんに知っていただければいいと思います。

市民に製鉄所を知っていただくことが大事ですね。横須賀はフランスの海軍が始めて飛んだところなんです。追浜の夏島で初めて飛んだんですね。フランスと海軍の飛行機が飛んだのも横須賀。海と空とフランスと関連しています。

事務局

いろいろな情報を伝えていきたいところですが、写真等も活用しながら進めていければと思います。

委員

浦賀奉行所 300 年に関連して、「浦賀にゆかりのある船舶の招致」というのは具体的にはどのようなことでしょうか。

事務局

浦賀で造られた船で、現在の港に入れるものを招致できるよう検討していきたいと思っています。

委員

400 年前には 100 トン級の船がメキシコに向けて出航した記録もありますが、それは含まれないということによろしいですね。アートフェスティバルについては、具体的にどのような構想がありますか。

- 事務局 現在、春と秋の数か月にわたり、市民文化祭を行っています。この期間を少し短縮して、例えば、異なる分野の団体のものを同時開催するような形で、異なる活動への興味を高め、交流を深めようという取り組みを行えばと考えています。もう1つは、横須賀総合高校の美術部は全国的に活躍していますが、それら高校生の作品等も市民文化祭の中に取り入れていけるようなことを考えています。これとは別に、芸術に関する大きなイベントを行うということを考えていますし、既存の横須賀美術館も活用しながら大きなくくりでのアートの発展を進められればと思っています。
- 委員 資料には「音楽、ダンスや・・・」という表現もありましたので、何かダンス関連のものもあるのかなと思いましたが、いかがでしょうか。
- 事務局 ダンスについては、政策推進部のプロジェクト推進課という部署がダンスフェスティバルというものを進めており、再興プランにも掲載しています。
- 委員 ダンスはどのようなものを考えていらっしゃいますか。
- 事務局 高校生が行うダンス、パフォーマンスを考えています。
- 事務局 EXILE に横須賀出身の方が2名いらっしゃって、横須賀の子ども達のためにオリジナルのダンスを作ってくれました。学校の取り組みとしてもやっていますので、それが広まってきた段階でコンクールのような形もできるでしょうし、いろいろな構想があるようです。
- 委員 戦後の横須賀はアメリカ文化の発信拠点として知られていますし、ジャズダンスやジャズの演奏などシニアの方でやっている方も多いでしょうから、アマチュアが参加できるコンテストのようなものがあれば、シニアには活気づくのではないかと思います。
- 委員 近代遺産周遊ツアーとありますが、フランス人にも役立つツアーができるといいですね。フランス語の資料はありますので、ご協力できることがありましたら、お声かけいただければと思います。
- 委員 横須賀郷土かるたですが、どのような使い方をされる予定ですか。

事務局 教育の現場で活用してもらおうというのが1つあります。構想の元となったのが群馬の上毛かるたというものですが、お土産屋さんでも販売しているようなんですね。同じように売れる形になれば、新しいお土産になるかもしれません。ただ、まだ構想の段階ですので、詳細は決まっています。

## 【審議事項】

### 次第4 その他について

質問・意見等はなく、審議を終了した。

以上をもって審議会を終了した。